

いわき市で 夏休み親子教室を開催しました

- ・ 目的：放射線に関する講演、実習を通して、放射線に関する基礎的な知識や放射線は身近にあること、測ることができること等を家族で学習する。
- ・ 開催日時：令和7年7月27日（日）10:00～11:30
- ・ 開催場所及び講師：いわき市総合保健福祉センター [松原昌平（原子力安全研究協会）]
- ・ 受講者：いわき市の小学校に通う児童とその保護者や家族 計28名
- ・ 内容：
 - －放射線のおはなし
 - －みんなで実験してみよう
 - －霧箱かんさつ、しゃへいクイズ、測定器のてんじ
 - －〇×クイズ
 - －まとめ、しつもんタイム
- ・ 概要：放射線のおはなしでは、放射線は身近にあること、量が多すぎると危ないこと、目には見えないが測ることができること等を学習した。みんなで実験してみようでは、GMサーベイメータを使用し、低学年は身の回りにある食べ物や肥料等から放射線が出ていることを確認し、高学年は外部被ばくの低減三原則「時間、距離、遮へい」について学習した。その後、様々な測定器の実演やクイズ、霧箱観察を行い、最後に振り返りを行った。参加者からは、「放射線について親子で学習でき、良い機会を設けてもらい感謝している。」「放射線が思っていたよりも身近なもので、第一原発事故の前から触れていたことに驚いた。」等の意見があった。

【質疑応答】

- ・ 第一原発の空間線量率ほどのくらいか。
→第一原発の空間線量率について、場所によっては1時間当たり約70マイクロシーベルトと高いところがある。皆さんの小学校にあるモニタリングポストの数値が約0.05～0.1マイクロシーベルトであるため、約1000倍近い数値である。
- ・ 放射線を1番遮るものは何か。
→よく使われるものは鉛である。歯のレントゲン検査を受ける時に防護のために着るエプロンには鉛が入っている。重い物は遮りやすい。
- ・ 家庭菜園の野菜や鳥の餌にも放射線を出すものが入っているのか。
→すべてに入っているが、それを食べたとしても心配する量ではない。



「放射線のおはなし」の様子



実演の様子